

会員活動報告集の投稿要領

原稿のまとめかたと投稿の体裁のルール

関東支部 活動支援委員会

自分の活動をまとめて投稿することは、自分への新しい気づきにつながります。私たちは、・自分への気づきの深まりと広がりを通して、・自他への理解を深め、・自己コントロールの能力を増すことができます。お互いの人格や社会的条件を尊重しつつ、温かい血の通った交流をもっともっと増やしていきましょう。

〔原稿の纏め方〕

A. 文章の書き方

1) 原稿を書いたことがない、という方のためにまとめかたのコツを紹介しておきます。小学校のときから作文が嫌いで、という方が多いのは承知しています。手紙を書くのもいやだ、という方は意外に多いのです。ただ、将来、指導会員として活躍したいという方は、人前で話せることはもちろん、これからは文章を書くことも能力開発していただきたいことを協会は求めています。

基本的に、絵文字抜きで数行のメールが打てる方なら、『会員活動報告集（以下、本誌という）』への投稿原稿は十分書けます。タイトルを含めて、

1 ページの場合は 1, 300 字程度

2 ページの場合は 3, 200 字程度

3 ページの場合は 5, 000 字程度

4 ページの場合は 6, 800 字程度

です。パソコンで40字40行ならもう1枚で1,600字です。2ページなら2枚になります。この字数が一つの目安になります。

2) 文章としては、小学生の作文よりは格段に進歩してほしい。これは既刊本誌をご参照いただければ、どの程度の文章でいいか、お分かりいただけると思います。

例えば「社員研修の講師として、活動してきた。その際にエゴグラムをたくさん集めたので投稿する」では少しぶっきらぼうです。もう少し説明してください。

〔『会員活動報告集』ならば〕

「筆者は、これまで30年間にわたり、企業の管理職研修や顧客満足研修を中心に、講師として活動してきた（背景の説明）。その際、エゴグラムの質問紙によって、同じ人でも結果（グラフ）が異なるのではないかという疑問を抱いたので、それについて事例を報告する（ナニを書くかのまとめ）」。

「である」調でも、平たく分かりやすい書き方を歓迎しています。

〔『TA実践研究』ならば〕

「論者（投稿先によって言い換えます）は、これまで30年間にわたり、企業の管理職研修や顧客満足研修を中心に、講師として活動してきた（背景の説明）。その際、永年にわたって経験的に、エゴグラム質問紙によって、同一人でもグラフが異なるのではないかと疑問を抱いたので、それについて検証する。証明したい仮説は「エゴグラムは常に同じ質問紙を使用しないと、同一状況、同一被験者であっても結果が大きく違ってくる」ということである（仮説の提唱）」。

という論理重視の書き方が求められます。媒体によって書き方は違ってきます。

3) お勧めしたい書き方は、カードによる「ブロック建造」

ブロック建造とは、造船所で大型船を作るときに、幾つかのブロックに分けて作っておいて、最後に一体にまとめるやりかたを言います。小分けすれば恐くありません。あの巨大なゾウだって、1切れ1切れのステーキにすれば完食できるという例え話もあります。項目建て（骨子）は当協会『心理学系論文の書き方ガイドブック』に倣って組み立てますが、本誌の場合は簡単でさしつかえありません。

1. はじめに
2. 本文
3. まとめ&感想

文献

でいいのです。「要約」も「キーワード」もありません。第二集のグループCが、ほとんど同一項目で書かれていることにお気づきだと思います。これでいいのです。

「本文」は必要によって、「調査・研究の進め方、課題に対する理論・・・」など幾つかの項目を立てて、それぞれ紙を用意します。項目ごとに分割するのです。こんなものを書きたいという骨子に沿って、何枚かの紙あるいはパソコン上で書けるところから書いていきます。

4) 当然、何回も行ったり来たりします。仮に一気呵成に仕上げたものでも、途中で少し発酵する時間を置くと、熟成していいものが出来上がります。何回もパソコンを開けたり閉じたり、行ったり来たりして推敲を重ねることが欠かせません。当然、骨子の修正や項目名称の変更が発生します。それでいいのです。そのプロセスを楽しみましょう。

各部分が出来上がったら、合体して、接続部分を繋がるように修正します。

5) 用字用語の間違いをチェックする

使っている言葉に間違いはないでしょうか。専門用語でしたら定義が必要です。本誌の場合、TA用語でテキストと同じ意味で使っているのでしたら、改めての定義はいりません。違う意味で使うときは、どういう意味で使っているか説明してください。

また差別用語にも気をつけてください。例えば「見える化」はNHKや日経新聞も使っている用語ですが、視覚障害者に対して不快用語だと言う方もいます。筆者は、あまり言葉制限をしようとして、窮屈になり真実が伝わらなくなると考えています。

6) だれかに見てもらいましょう

自分で書いたものはけっこう独りよがりな文章になっていたりします。自分で自分の文章に酔うのです。しかし、他人が見ると、ここは飛躍があるのでもっと書き込んでほしいとか、これは意味

不明だとか、いろいろと問題が出てきます。直されて面白くなくても、じっと冷静に読み直してみてください。第三者に伝わらないと意味がないのですから、読んで批判してくれた人に感謝しましょう。

とにかくやってみましょう。案外、書けるものです。

7) 過去に類似のテーマがあっても諦めない

過去の研究や報告が補強されるわけですから、「『TA実践研究』第・巻ダレソレの研究を同一手法で追試してみた結果の報告」でもいいし、「・・工場におけるパーソナリティの研究」のように状況を絞ってでもいいのです。既存の報告とは少し違う状況設定になります。エゴグラムでしたら質問紙が変われば答えも変わってきます。

B. 本誌の投稿の体裁のルール

当協会『心理学系論文の書き方ガイドブック』8ページ以降に従います。

1) 投稿に当たっては、必ず「表題、タイトル」をつけてください。また「氏名・会員番号・協会資格・住所・連絡電話・ファクス」を明記してください。もしタイトルがないときは、当委員会で、投稿者の意思を確認することなく「適当に」つけることとなります。2) お送りいただいたものは“一発取り”です。そのまま撮影して印刷します。誤字脱字があってもそのまま印刷してしまいます。

3) 添付ファイルの場合は必ず「ワード」を使用してください。紙の場合は折れ目がつかないように台紙をあてて送ってください。

4) **関東支部事務局あてに、件名に「第14集：氏名－1」と記載してお送りください（詳しくは「会員活動報告集 原稿作成までのご説明」を参照ください）。**

必ず「重要」「開封確認」をつけてください。

5) アルファベット3文字以下は全角をういます。

「CP」がOK。半角の「CP」は不可。4文字以上は間延びを防ぐために半角を使います。

6) 数字は2桁までは全角。3桁以上は半角にしてください。

7) 数えるものは1、2、3です。「一石二鳥」「第一に」など、もともと漢語なものや「第一印刷」など固有名詞は漢数字です。「1石2鳥」「第1に」は間違いです。

また、曖昧表現は使わないでください（でしょう、たぶん、だと思、等々）

8) 用字用語は、1冊を通して無理に統一しません。がその原稿の中では統一しておいてください。「子供、子ども、こども」が混用されていますと読みにくくなります。専門用語は、よほど難解でない限り使用してください。

9) 言葉の遣い方は「ここは漢字が多いから平仮名で書こう」というような、同じ言葉でも漢字や平仮名で書き分ける文学的配慮より、機械的に統一した理工学的表現にします。

10) 一つの文章をあまり長くしないで適当な長さで切ってください。短文かつ単文（一つの文章に意味は一つ）にしてください。長文かつ複文（意味が二つ以上）は不可です。

11) 句読点は「、と。」です。

12) 守秘義務は厳重に守ってください。特に個人情報に注意してください。事例研究でしたらD氏

(40歳。男性)、X-1年、東北地方U市など特定できないようにします。

13) 協力いただいた企業が有る場合は当該企業の同意が必要です。顕名か匿名か、確認してください。顕名の場合、末尾に謝辞を記入します。

14) 当協会の倫理委員会は、提出物について逐一の調査は行いません。「協会倫理規定に照らして適合と判断した」と記入してください。あくまで執筆者責任です。

15) 本誌の引用文献や参考文献の書き方は、上記ガイドブックに従います。書名は分かりやすくするために『 』で括ります。引用文献と参考文献は分けて書いたほうが丁寧ですが、本誌では統合しても構いません。また引用ページも省略して構いません。

例) 杉田峰康『こじれる人間関係』創元社。2000

ジェイムズ、M. 深澤道子訳『突破への道』社会思想社。1984

新聞や雑誌、インターネットからの引用は、上記ガイドブックを参照してください。官公庁発表物以外のインターネットからの引用の場合は、信憑性に疑わしい俗説やガセネタも多いので注意します。

16) これは私的意見ですが、今後、投稿の機会の増える指導会員各位にあっては、学術研究や論文に習熟するため、日本交流分析学会に加入して『交流分析研究』誌の論文や大会のポスター発表の手法を習得することをお勧めします。また同学会大会や春秋の中央研修会への積極的参加もお勧めします。指導会員はクリニカルモデルも承知しておくことが欠かせません。

活動支援委員会では、会員の研究や諸活動を支援しています。ご相談は随時受け付けています。

なお、一般書・実用書的な文章を書く場合には、上坂徹『職業。ブックライター』（講談社。2013)を参考書としてお勧めします。

以 上